

## 水辺の話題（２）

### 世界水ビジョン東京会議が開催される

建設省河川局河川計画課課長補佐 今村 能之

平成11年11月1日（月）～3日（水）の3日間、世界水ビジョン東京会議が開催されました。1日（月）～2日（火）の2日間は東京のダイヤモンドホテルで「川と水」東京会議が開催され、国内外から37名の参加者および一般の聴講者約200名が参加しました。また、3日（水）にシェーンパッサボーにおいて国際シンポジウム「河川流域における水問題」が開催され、約650名の参加がありました。

#### 深刻化する世界の水事情

現在、開発途上国を中心とする世界各地で、洪水被害の増大、水不足、水質汚染などの水問題が発生しており、これに起因する食糧難、伝染病の発生などその影響はますます拡大しています。これまで水問題に対する国際的な協力は不十分だったとの認識の下、1996年に、水に関する国際機関、学会などが中心となり、世界水パートナーシップ(GWP)、世界水会議(WWC)が新たに設立され、1998年に『21世紀に向けた世界水ビジョン』（世界水ビジョン）策定の取り組みが始まりました。2000年3月にオランダのハーグで行われる第2回世界水フォーラムにおいて、この世界水ビジョンを発表することとなっています。

「川と水」委員会は、世界水ビジョンの策定に向け世界各地で開催されている分野別委員会のひとつであり、日本が中心となって活動を行っています。「川と水」東京会議は世界の水問題を解決するためには河川流域という視点が重要であるという認識のもと開催されたものであり、この会議の成果は、世界水ビジョンに反映されることとなっています。

#### 「川と水」東京会議

「川と水」東京会議は、11月1日（月）と2日（火）の2日間、東京（ダイヤモンドホテル）で開催されました。会議には、世界銀行、世界気象機関（WMO）等の国際機関をはじめ、国際水理学会（IAHR）などの学会、世界自然保護連盟（IUCN）などのNGO、各国政府、大学、研究機関などから参加者がありました（参加者名簿参照）。会議は中山正暉建設大臣の挨拶に始まり、世界水ビジョン事務局長のウイリアム・コスグロ

ーブ氏より、世界水ビジョンに関する基調講演がありました。その後、世界水パートナーシップ（GWP）の活動や、第2回世界水フォーラムの活動に関して説明があり、最後に「川と水」の尾田榮章事務局長より、「川と水」委員会の活動および会議全体の進め方について説明がありました。



基調講演をするコスグロブ氏  
（国際シンポジウム）



東京会議  
全体討議の様子

午後は、参加者がそれぞれ「健全で持続可能な水循環に向けて」、「洪水と渇水」、「河川環境と人間」、「行政と市民参加」の4つのセッションに分かれて、活発な議論を行いました。各セッションの結果及び2日の全体討議を経て、「河川を理解し、河川についての認識を深める」、「河川流域への総合的アプローチ」、「河川環境を尊重する」、「ただちに水・土地利用の効率的な管理を促進する措置を講じることにより河川を救う」の4つの考え方を中心とする「川と水」東京会議の世界水ビジョン最終案が取りまとめられました。

## 国際シンポジウム

11月3日（水）は、世界の水問題を議論する「河川流域における水問題」に関する国際シンポジウムが開催されました。シンポジウムは、加藤卓二建設総括政務次官のあいさつにはじまり、その後、ウィリアム・コスグローブ氏（世界水ビジョン事務局長・元世界銀行副総裁）より「世界の水問題」について大変わかりやすく、かつ熱心な基調講演がありました。その後、「河川流域を考える」と題して、コスグローブ氏、エンジェル・アレハンドロ氏（東南アジア水連絡協議会長、元フィリピン大学教授）、高橋一生氏（国際開発研究センター所長、二一世紀に向けた世界水委員会委員）、星

野知子さん（女優）、尾田榮章氏（世界水ビジョン「川と水」委員会事務局長）をパネリスト、藤吉洋一郎氏（NHK解説委員）をコーディネータとして、パネルディスカッションが行われました。河川流域における取り組みが、水問題を解決する上で重要であり、そのためには市民やNGOの参加が不可欠であるなどの議論が、わかりやすい映像を交え、活発に行われました。この模様は1月14日（金）午後11時にNHK教育テレビ「金曜フォーラム」にて放映される予定です。なお、「川と水」委員会の活動及び今回の会議に関する詳細は、「川と水」のホームページ、<http://www.idi.or.jp/vision/indexj.htm> を見てください。

### 参加者名簿（敬称略）

セッション1 健全で持続可能な水環境に向けて			
1	アーサー・アスキュー	スイス	世界気象機関 水文・水資源部長（WMO）
2	浅沼 順	日本	長岡技術科学大学教授
3	フォン・イツケン	ボツワナ	水資源部技師長
4	ディー・エム・モーレ	インド	マハラシュトラ水灌漑局長
5	沖 大幹	日本	東京大学生産技術研究所助教授
6	石球波	中国	水利部技師長
セッション2 洪水と渇水			
1	クリストファー・ジョージ	オランダ	国際水理学会事務局長
2	ダドリー・ビッグス	ナムビア	農業用水・地域開発省副局長
3	今村能之	日本	建設省河川局河川計画課課長補佐
4	中村良太	日本	日本農業土木総合研究所顧問 / 「水と食糧」委員会委員
5	マイケル・ロールッティ	アメリカ	内務省開拓局政策課長
6	竹内邦良	日本	山梨大学教授 / UNESCO国際水文学計画政府間理事会議長 国際水資源学会副会長
7	ロドニー・ホワイト	イギリス	国際水理学会理事 英国ハートフォードシャー大学客員教授
セッション3 河川環境と人間			
1	エンジェル・アルハンドロ	フィリピン	東南アジア水連絡協議会長 / 元フィリピン大学教授
2	安中徳二	日本	日本下水道事業団理事 / 「水と人間」委員会委員
3	ハンズ・フレンデリッチ	タイ	世界自然保護連盟生態系プログラム代表
4	ホゼ・ガルシア	ベネズエラ	オリノコ川流域局長
5	トーキル・ヨンチ・クラウゼン	デンマーク	世界水パートナーシップ諮問委員会委員長
6	小坂正俊	日本	（財）日本野鳥の会保護調査センター調査室長
7	バドゥルディン・マクバブ	インドネシア	公共事業省 水資源開発研究所長
8	松井三郎	日本	京都大学環境質制御研究センター教授
9	松浦重徳	日本	（財）日本生態系協会環境政策室主任研究員
10	玉井信行	日本	東京大学社会基盤工学研究所教授 国際水会議分科会 議長
11	辻本哲郎	日本	名古屋大学工学部教授
セッション4 行政と市民参加			
1	スンタク・リー	韓国	韓国嶺南大学教授、韓国土木学会副会長
2	ウィリアム・コスグローブ	フランス	世界水ビジョン事務局長 元世界銀行副総裁
3	バート・ディフォーン	オランダ	世界水フォーラム実行委員会委員長
4	シオドー・ハーマン	アメリカ	世界銀行 東アジア・太平洋地域局 地域開発・自然資源部水資源総括官
5	キース・ベン・ラホーベン	オランダ	住宅・空間計画・建設省 環境保全局水政策調整官
6	尾田榮章	日本	「川と水」委員会事務局長 / 建設省 河川局 元局長
7	フランク・バン・スティーンバーゼン	イギリス	地球水パートナーシップ（GWP）委員
8	高橋一生	日本	国際開発研究センター所長 21世紀に向けた世界水委員会委員
9	高橋 裕	日本	東京大学 名誉教授 / 世界水会議理事
10	リー・ヒュー・ティール	タイ	アジア・太平洋経済社会委員会連邦国家経済局員（ESCAP）
11	安田吾郎	日本	建設省河川局河川開発課課長補佐
12	吉田正人	日本	（財）日本自然保護協会研究部長
13	サマー・ザカリア	マレーシア	農業省 灌漑排水局 河川部長

下線はデモレーター。その他は、アルファベット表記による順。